



第81号

令和4年9月30日 発行

【柏市ことばの教室】

柏三小・旭小・柏の葉小・富勢西小・増尾西小・
逆井小・大津一小

【柏市きこえの教室】

柏三小

「あきらめずに続けること」を支えるために

柏市立増尾西小学校 校長 小宮山 みゆき

「青春ってすごく密」

今年の夏、全国高等学校野球選手権大会で東北勢として初の優勝を成し遂げた仙台育英学園高等学校の須江航監督の優勝インタビューの中で発せられたこの言葉が話題になりました。コロナ禍となり、3回目の夏が終わろうとしています。子どもも大人もこの3年で多くのことをあきらめ、我慢をしてきました。本来、成長期に大切である人と人との関わりも感染症に気をつけながら慎重に行ってきたと言わざるをえません。子どもたちが楽しそうにじゃれ合っている姿や、顔と顔がくっつくほど近くでおしゃべりをしている様子は微笑ましいものであるのに、時には「密になっていますよ。」と言わざるを得ない状況が続いていました。偶然テレビのニュースを見てこの言葉を聞き、私も大変共感しました。

さて、ことばの教室に通う子どもたちにとって、このコロナ禍の状況はより厳しいものであろうということとは想像ができます。マスクをしたままでの会話、黙って食べる給食、友達との距離・・・。「発音がきれいになりたいな。」「吃音をなおしたいな。」「たくさんの言葉を使いたいな。」など一人一人の課題は様々です。自らの課題を認識し、目標を持って日々取り組み続けます。もちろん、すぐにできるようになるものばかりではないし、すべての課題を達成できるとは限りません。担当職員は、一人一人の課題に寄り添い、粘り強く指導をくり返しています。1対1で学習を進めることは、言葉での表現を苦手とするお子さんにとっては安心感があり、個に即した支援を受けることで自信をつけ、認められることで自己肯定感を高めることにつながります。もちろん、保護者の皆様の励ましや、見守りも大きな力となります。担任の先生とは連携し、ことばの教室での学習状況を共有します。一人の子どものために多くの大人たちが力を合わせ支えています。そんな様子を目の当たりにすると心から「がんばれ」と応援をしたくなります。

本校では、平成3年にことばの教室が設置され、7月15日に開級式が行われたという記録が残っています。それから30年以上の月日が流れ、多くの子どもたちが卒業や終了をしてきたことでしょう。大人になった今、どのようにしているのでしょうか。今年度は3クラスで自校通級21名、他校通級が5校から20名でスタートしました。すでに通級を終了したお子さんもいれば、新たに通級を始めたお子さんもいます。ことばの教室の存在の大きさと、責任の重さを痛感しています。

須江航監督の言葉は続きます。

「活動していても、どこかでストップがかかって、どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で、でも本当にあきらめないでやってくれたこと。」と。

あきらめないでやり続けることが優勝という結果をもたらしたということなのでしょう。ことばの教室での学習も同じです。あきらめずに続けていくことで課題の達成に近づきます。その過程で、やめたいこともあるかもしれませんが、苦しいこともあるかもしれません。それでも続けることが大切なのです。そんな時こそ、私たち大人が支え続けていきたいものです。「あきらめずに続けること」を支え続ける存在でありたいと思っています。

きこえの教室・ことばの教室とは？

1. きこえの教室・ことばの教室は、どこにあるの？

きこえの教室は市内に1校1教室、ことばの教室は市内に7校15教室あります。今年度新たに4教室増えました。

設置校(教室数)	担当校			
柏の葉小 (言語3)	田中小	田中北小	花野井小	西原小
	十余二小			
富勢西小 (言語1)	富勢小	富勢東小	松葉一小	松葉二小
旭小 (言語3)	柏一小	柏二小	柏四小	柏六小
	柏七小	旭東小	高田小	
柏三小 (難聴1・言語3)	柏五小	柏八小	名戸ヶ谷小	豊小
	中原小			
増尾西小 (言語3)	光ヶ丘小	土小	土南部小	酒井根小
	酒井根東小	酒井根西小		
逆井小(言語1)	藤心小	高柳小	高柳西小	
大津一小 (言語1)	大津二小	風早北部小	風早南部小	手賀西小
	手賀東小			

※ きこえの教室は、柏市全域を担当します。

2. きこえの教室・ことばの教室には、どんな子どもが通っているの？

- ・難聴のある子
聞こえにくい
補聴器をつけている など
- ・発音が気になる子
「さかな→シャカナ」、「かに→タニ」などの置換がある
「キ・シ・チ」の発音が不明瞭 など
- ・吃音のある子
「ぼ・ぼ・ぼくが」のように、音や言葉を繰り返す(連発)
「ぼ〜くが」のように、音を伸ばす(伸発)
「……ぼく」のように、なかなか言葉が出ない(難発) など
- ・言葉の発達が遅れている子
語彙が少ない
話が伝わりづらい
状況に合わせて話すのが苦手 など

きこえ
ことば

3. きこえの教室・ことばの教室では、どんな指導や支援をしているの？

- ・きこえや言葉について、一緒に考え、言葉や話をよく聞けるようにします。
- ・話をよく聞けるように支援します。
- ・発音の仕方や話し方を学びます。
- ・言葉でやりとりする力を育てます。
- ・生き生きと自己表現できるように支援します。
- ・在籍校と連携し、指導や支援を進めていきます。(遅刻や早退にはなりません。)

通級までの流れは？

1. 在籍校で、「通級指導教室 相談・通級申込書」を受け取ります。
2. 必要事項を記入し、在籍校へ申込書を提出します。
3. 通級指導教室の担当者から、ご自宅もしくは携帯に連絡が入ります。
面談の日時を決めます。
4. 通級指導教室にて、本人・保護者と担当者が面談します。
通級することになった場合は、通級する曜日と時間を決めます。
5. 通級が始まります。(保護者が送迎します。)

※ 問い合わせ先 柏市教育委員会 児童生徒課 就学相談窓口

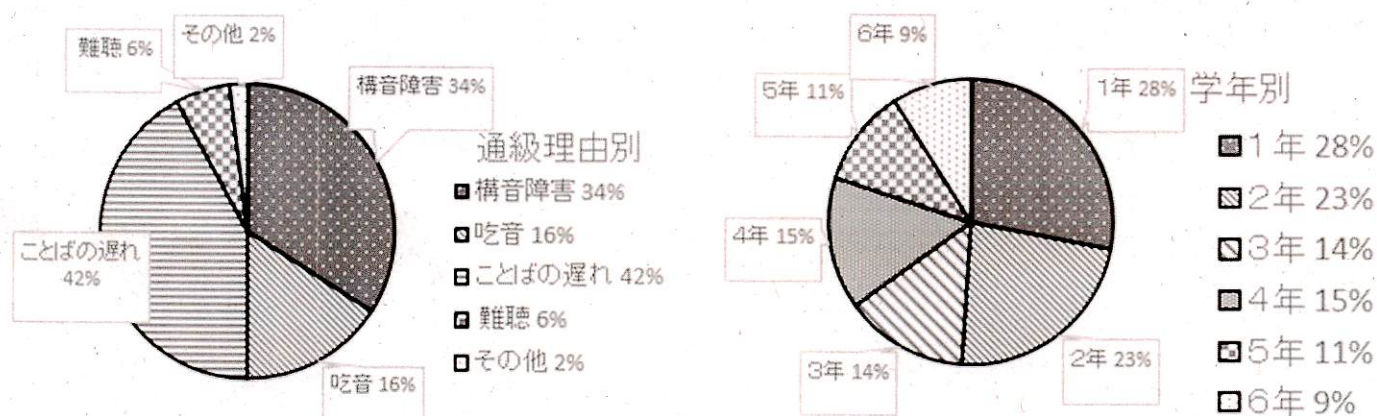
☎ 04-7128-2227(9:00~16:00)

令和4年度の通級者の内訳は？

令和4年5月1日現在、市内7校の通級者の内訳は、以下の通りです。

通級理由で一番多かったのは、「ことばの遅れ」、次いで「構音障害」となっています。

通級している児童は、1年生が一番多く、次いで2年生となっています。学年が上がるごとに通級する児童は減っています。



・・・編集後記・・・

柏市の小学校で版画を教えてくださっている版画家の大野隆司先生が、「きこえ・ことば」のタイトルとなる版画を作ってくださいました。ウサギとネコがモチーフのとても可愛い版画です。さっそく81号から使わせていただくことになりました。この紙面をお借りして、改めて大野先生に感謝申し上げます。

今年度、ことばの教室が増設され、新たに7人の先生がことばの教室の担当となりました。きこえの教室・ことばの教室には、250人を超える人数の児童が通級しています。通級する児童以外のみなさんにも、きこえの教室・ことばの教室のことを知ってもらうため、「きこえの教室・ことばの教室とは？」という特集を組みました。より理解が深まれば幸いです。(柏言研幹事 柏三小)

今年度から新たにことばの教室の担当になった先生方を紹介します

「子どもたちとの関係づくりを大切に」

柏第三小学校 黒崎 聡子

子どもたちと一緒に、口や舌の体操、発声練習、発音練習、音読等に取り組んでいます。通級してくるお子さんとの関係づくりを大切に、ことばの教室に来て楽しかったと感じてもらえるような授業になるように心がけています。特別支援学級担任として特別支援教育に携わってきた経験を活かしながら、子どもたちと一緒にがんばっていきたいと思います。

「話して伝える楽しさ」

柏第三小学校 藤井 浩平

試行錯誤の中でスタートしましたが、授業では、子どもとの会話を大切にしています。読み書きや発音が苦手でも、家や学校での出来事を頑張って伝えようとする子どもたちの姿に、指導を通じて自信を持って話せるように成長してほしいと強く感じました。何かと制限のある中ではありますが、子どもたちと共に、より良いことばの教室を作っていきたいと思います。

「週に一度の貴重な時間」

旭小学校 甲野藤 みちる

教室に来ると、学校やお家での出来事を楽しそうに話してくれる子どもたち。毎回、会話の積み重ねを大切に授業してきました。「ことばの教室」では、一対一で子どもとかわり、その子に合う授業を組み立てることができます。今後も保護者の皆様や担任の先生と連絡を密に取り、子どもたちにとって実り多い通級になるよう、研鑽を積み、専門知識と様々な指導方法を学んでいきたいです。

「子どもたちとじっくり向き合える喜び」

旭小学校 馬場 美樹

一時間の授業を終え、「もっと勉強したい!」と嬉しそうに話す子どもたちの姿や、保護者の方と一緒に成長を喜べることに、たくさんの幸せを頂いています。保護者、担任の先生と連携を取り、一人一人の課題に合わせた楽しみながら学習できる方法を取り入れていきます。子どもたちの自己肯定感を育み、よりよい生活が送れるよう手助けができたと思います。

「ことばの教室担当になって」

増尾西小学校 寺坂 桂子

1 時間ひとりに向き合え、私が今、この子につけてあげられる力は何だろうと、じっくり考えられることに喜びを感じています。ある学級担任より、「晴れやかな顔をして帰ってきました。」と伝えられ、嬉しく思いました。子ども達が、学校生活に自信を持ち、思いを言葉にでき、「話すのって楽しい。」と笑顔で教室に戻っていけるよう、研鑽を積み、日々の授業に臨んでいきたいと思います。

「子どもに寄り添って」

富勢西小 鷹取 直子

校内や近隣の小学校から通級してくる子ども達と口の体操や正しい発音のためのトレーニング、音読などそれぞれの課題に応じて毎回楽しく学習を進めています。その子らしさを大切にしながら一人一人が主体的に学ぶことができるように日々研修を重ね、子どもたちが日常生活の中で充実感を味わい、困り感が小さくなっていけるように努めていきたいと思っています。

『「ことば」を育てるために』

柏の葉小学校 中山 千晴

「ことば」を育てるためには、自己肯定感を高め考える力を育てていくことが大切だと思います。児童の良いところに目を向け、話や気持ちをよく聴いて、共感したり励ましたりしながら進めています。児童が課題に前向きに取り組む姿や、「できた!」と笑顔を見せてくれる時は、とても嬉しくなります。今後も、一人一人に合わせた授業を行い、達成感や満足感を積み重ねていけるよう支援していきます。